

令和3年度第2回 第三次多摩市子どもの読書活動推進市民ボランティア連絡会 要点録

日 時 令和3年10月28日（木）午後2時～午後4時35分

場 所 多摩市立図書館 本館 講座室

出 席 おはなしチャチャチャ、コアラ文庫、多摩おはなしの会、多摩市文庫連絡協議会、
もりの文庫、つくしんぼ文庫、布の絵本サークル ピエロ

欠 席 ひなたぼっこ、ひなの会、

（事務局）

コロナ対策として距離をとり、換気をしながら時間短縮し開催する、ご理解願いたい。

開会

（事務局）

（資料の確認）

1 令和3年度第1回 第三次多摩市子どもの読書活動推進市民ボランティア連絡会 要点録（案）の確認

（事務局）

・4箇所、修正点がある。

（8ページ4行目 脱字、32行目 文言の追加、9ページ15、16行目 文言の修正）

（会長）

・特に意見がないようなので、確定とする。

2 報告事項

（1）第三次多摩市子どもの読書活動推進計画アクションプラン（令和3年度版）【図書館・関係課分】について

（事務局）

・こちらは平成31年度から毎年作成しているが、今年も図書館内部と関係課、市立小中学校に昨年度の振り返りと今後の予定について記入を依頼し、冊子にまとめた。

・再度表の見方を確認させていただく。考え方・表の見方については、冒頭に記

載している。

- ・図書館については、計画より遅れている部分が徐々に出てきている。計画の後半に向け、子ども読書支援係を中心に、力を入れていきたい部分についてご説明する。

施策番号1 本の情報提供

2 ページ【レベルアップ事項】

- ①図書館ホームページにおける児童、ティーンズ、学校関係者等へ向けた情報提供を充実させる。
→ホームページを活用した広報がまだ充実できていない。随時更新はしているが、工夫が必要である。

7 ページ【新規事項】

- ①支援が必要な子どもに関わっている大人向けの参考資料やブックリストの作成（施策9に再掲）
→LLブックのリストは一昨年作成したが、昨年度は新たに作成できず、前年度のもの使った。その他のブックリストは、昨年度「よんでみよう！」1年生、2年生の改訂を行ったため時間的に難しく、作成できなかった。現在は、「よんでみよう！」3年生、4年生の改訂を行っている。今後計画的に、その他のブックリストも作成したい。

8 ページ【レベルアップ事項】

- ②ブックリストの作成・改訂と配布場所の拡大
→今後、各関係機関に配付したい。

施策番号2 市立図書館・学校図書館のPR、利用指導

23 ページ【新規事項】

- ①幼稚園、保育園の園児を対象とするPRの取り組みを行う。
→おはなし会の実施等も検討したいが、新型コロナウイルスの影響で難しい状況である。方向性を含め、今後検討していく。

26 ページ【新規事項】

- ②市立図書館のPRを中学生へ向けて行う。（中学校へ出張開催等）
→出張開催等とあるが、現在は中学生向け広報誌の発行を検討している。小学生向けに「多摩市立図書館ニュース」を発行したので、中学生向けも検討したい。

27ページ【新規事項】

- ④地域の親子カフェやコミュニティカフェが子どもや親を対象としてイベントを行う際、関連図書の展示や図書館の「絵本のきろく」などの資料をおけるよう調整する。

→全くの新規事項。今後図書館として親子カフェのような施設にも関わっていきたい。

28ページ【新規事項】

- ①ゆうかり教室通室児童・生徒への市立図書館のPR充実（施策9に再掲）

→教育センターと調整する。

29ページ【新規事項】

- ①地域図書館が併設されていない児童館・学童クラブにおいて、「幼児のつどい」、「常設ひろば（午前中）」、学童クラブの「育成時間（午後）」に各施設と連携して図書館がおはなし会を実施し、その中で図書館をPRする。（施策3に再掲）

→令和元年度後半、ボランティアの協力を得て、おはなし会が実施できそうなところまで調整したが、新型コロナウイルスの影響により、実施に至らなかった。今後の方向性を考え、関係課と調整していく。

30ページ【新規事項】

- ①ひまわり教室における幼児への市立図書館のPRの充実（施策9に再掲）

→発達支援室と調整する。

施策番号3 おはなし会、イベントの充実

36ページ【新規事項】

- ②支援が必要な子どもへのおはなし会についての情報収集等を進めるとともに、ボランティア等の活動者への情報提供をおこなう。

→ボランティア団体がどのような情報を得たいのか確認する。また、他市の先進的な取り組みについて情報収集していく。

36ページ【新規事項】

- ③図書館が主催するおはなし会の今後のあり方、ボランティアとの協力体制等の方向性を決定する。

→課題となっている事項について、この市民ボランティア連絡会で議論していく。また、図書館内でも担当者会議で検討する。

4 4 ページ【新規事項】

- ①発達支援室が実施しているくれよん事業やひまわり教室でのよみきかせの実施。→施策9に再掲
→くれよん事業は令和2年度で終了となったため、ひまわり教室でのおはなし会を、方向性を含め再検討していく。

4 5 ページ【新規事項】

- ①中学生向けの読書活動を他校の人とも交流できるように市立図書館等で実施する。
→今後、図書館を体験的探究活動の場として使ってもらいたいと考えている。

4 8 ページ【レベルアップ事項】

- ③子どもの読書活動の重要性をより効果的にPRしていくために、イベントのあり方を総合的に再検討する。
→令和元年度にボランティアの皆様からご意見をいただいた。今後中央図書館のオープンもあるので、全体のイベント内容を引き続き検討する。

施策番号4 保護者への働きかけ

5 3 ページ【新規事項】

- ①ボランティアとの協働で保育園・幼稚園児や保護者向けのおはなし会を実施し、おすすめ本のリスト等を配布する。
→新型コロナウイルス感染症の影響で思うように進んでいない。多摩保育園とともに、今後再検討する。

5 5 ページ【新規事項】

- ①くれよん事業やひまわり教室事業の中でおはなし会を実施する際に、親向けにも図書館のPR等を盛り込み、保護者への働きかけを行う。
→新型コロナウイルス感染症の影響のため、おはなし会以外の方法を含めての検討が必要だと考えている。

施策番号5 蔵書の充実・活用

6 0 ページ【レベルアップ事項】

- ②新刊図書の購入による蔵書の充実と団体への情報提供
→これまで、特に調べ学習用図書や団体貸出用の図書を充実させてきた。また昨年度は新しい取り組みとして、電子図書館を導入した。今後は団体への情報提供について、より具体的に検討していく。

60ページ【レベルアップ事項】

③外国語資料、多文化に対応した資料の充実、提供

→文化・生涯学習推進課や、国際交流センターと意見交換をしていきたいと思っている。

施策番号6 読書コーナー・絵本コーナー等の設置、充実

67ページ【新規事項】

①子どもの来館者が多い公共施設に絵本等の棚を設置し、良書に触れる機会を増やす。

→公共施設の絵本コーナー数を増やせていないので、働きかけをしていく。

施策番号7 学校図書館の環境整備及び機能の充実

70ページ【新規事項】

①「読書センター」「学習センター」「情報センター」機能の3つの機能の一層の向上を目指す。

→学校では、タブレットを使つての学習が始まっており、学校図書館を取り巻く環境も変化している。それを踏まえた学校図書館の機能について、学校関係者との意見交換が必要だと考えている。

88ページ【新規事項】

③支援が必要な子どもたちへどのような取り組みが求められているかを把握するための情報（他市や先進的な取り組み）の収集を行う。また関係機関等に情報発信等を行うとともに参考資料等の作成を目指す。

→先進市の情報を参考に検討していきたいと考えている。

88ページ【新規事項】

④長期間入院をしている子ども向けのサービスの実施に向けての検討

→現在、新型コロナウイルス感染症拡大のため、実際にどんな取り組みができるかわからない状況である。再検討が必要。

88ページ【新規事項】

⑤子ども食堂等のNPO団体への団体貸出の推進

→関係課と調整し、方向性含め検討していく。

施策番号10 担当職員による児童サービス・ティーンズサービスの充実

91ページ【新規事項】

③SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の活用を検討

→市の広報としてTwitterやLINEを活用している。今後も引き続き活用し、情報発信していく。他市の状況についても確認する。

施策番号13 読書活動・ボランティア活動の支援

98ページ【レベルアップ事項】

①ボランティア養成の一環として、読み聞かせの場として児童館・学童クラブ、地域子育て支援拠点施設等を活用する。

→令和元年度、実現しそうであったが新型コロナウイルス感染症の影響により中断。再度、関係課と意見交換していきたい。（本要点録3ページ「29ページ【新規事項】」と同じ。）

施策番号14 図書館の相互連携と人材と組織をむすぶネットワークづくり

101ページ【新規事項】

①図書館は地域図書館が併設されていない児童館・学童クラブ、地域子育て支援拠点施設などでの出張読み聞かせに取り組むとともに、各施設の利用者ニーズを理解し、施設職員との連携を図り、地域単位での関係づくりを行う。

→出張おはなし会は実施できていない。児童館・学童クラブ、地域子育て支援拠点施設と意見交換をし、今後について検討したい。

- ・アクションプラン小・中学校版は、次回会議で配付する。
- ・推進連絡会の内容について、市民ボランティア連絡会で報告してほしいということであったが、令和3年度第1回推進連絡会（8月）は、新型コロナウイルス感染症の影響により書面開催となった。内容は、アクションプランの報告と、先ほどの図書館の課題の報告である。

（コアラ文庫）

- ・今、話があったのは、計画したが何か理由があり、今のところできていない項目か。そして、それらについて今後どのようにしていくのかの説明という認識でよいか。
- （事務局）そうである。

（コアラ文庫）

- ・毎年見直ししながら進めていくという説明だったので、私たちボランティアは報告

を受けて確認しておくということか。

→（事務局）この市民ボランティア連絡会の役割は、第三次多摩市子どもの読書活動推進計画の進行管理である。そのため、計画の進行について指摘や助言などをしていただきたい。

（コアラ文庫）

・アクションプランの各項目のアルファベットでの評価は、図書館が付けたものか。

→（事務局）図書館の活動については図書館が評価している。関係課の活動は、関係課が評価している。自己評価をして、現在の状況を鑑み計画を変更することもある。

（コアラ文庫）

・では市民ボランティア連絡会は、外部評価を担っているということか。

→（事務局）そうである。

（コアラ文庫）

・アクションプランの文言だけだと、実際どうであったのかわかりにくい。児童の読書推進に関わることは、できるだけ常々見ておくことが必要だと感じた。

（もりの文庫）

・新型コロナウイルス感染症の影響でできなかったことも多いようだが、現実にはその間も子どもは育っていて、コロナ禍でも活動していた子育て機関はある。その点についてはどう考えているのか、と思った。

3 意見交換

（2）第13回子ども読書まつり《ほんともフェスタ》について

（時間の都合により、次第の順序を変更した）

（事務局）

（資料に沿って説明）

（つくしんぼ文庫）

・特別おはなし会について11月20日までに連絡とあるが、つくしんぼ文庫は定例会が17日のため、20日までに決定し連絡することは難しい。

(もりの文庫)

- ・今回この場に出席している人だけの問題ではなく、また時期も迫っているため、きちんとお知らせいただきたい。
- (事務局) 各団体に照会する。特別おはなし会を実施するかしないかだけご回答いただければと思う。

(もりの文庫)

- ・ほんとにもフェスタについては、その在り方を考えていた段階で新型コロナウイルス感染症が流行し、令和元年度は直前に中止、令和2年度は規模を縮小しての実施となった。今年度のほんとにもフェスタは、令和元年度に中止になった回を踏襲するということでしょうか。
- (事務局) そうである。

(会長)

- ・時間もないため、踏襲する形が無難だと思うが、何か意見があるか。

(多摩おはなしの会)

- ・本来第三次計画で在り方を検討する予定だったと思う。第一次計画・第二次計画では図書館主催ではない形で実施していたが、第二次計画の終わり頃から、図書館主催となった。第三次計画ではほんとにもフェスタの在り方を考えたいので、その間図書館主催で実施するというものではなかったか。

(もりの文庫)

- ・私の記憶では、令和元年度のほんとにもフェスタは暫定で図書館主催となっていた。その中で在り方を考えていくということだったが、一年間進展していないため、そのまま踏襲ということになったのだと思う。在り方について考えている最中であつたという認識でよいのか。また今回は、とりあえず踏襲という形で協力するというものでよいのか。

(多摩おはなしの会)

- ・コロナ禍での開催となるので、踏襲する形で仕方ないという意味で了承する。
- (事務局) ほんとにもフェスタの在り方については令和元年度に議論していただいたが結論が出ず、その後新型コロナウイルスが流行し始めたという状況である。今後、状況を見つつ検討していただければと思う。

(もりの文庫)

- ・今年度のほんともフェスタの講演会は新型コロナウイルス感染症についてのようだが、新型コロナウイルス感染症については現在様々な考え方がある中で、この講演会はどのような内容になるのか、と思う。ネットにも様々な意見があり、何が正しく何が正しくないのかわからない。ウイルス全般について等基礎的なことや、子ども向けの内容ならよいのだが。

→ (事務局) 小学校高学年程度ならわかるように話してもらえと思う。講師の小林氏は「知ることからはじめよう 感染症教室 (全5巻)」(ポプラ社)の監修者である。本にも触れながら、市民が知りたいと思っているワクチンのことや今後どのような感染症が出てくるのか等、お話ししていただきたいと思っている。

(もりの文庫)

- ・なるべく小・中学生が分かる話をしていただきたい。大人も聞いてよいが、あくまでもメインの対象は子どもにしてほしい。大人も参加してよいが、対象を小学生等にした方が、一般的な内容の話が聞けると思う。

→ (事務局) 高学年くらいからわかるような内容で話していただくが、大人も対象含めたいという状況である。

(会長)

- ・既に講師の方とお話をして決められていると思うが、このような意見もあったということを気に留めておいていただきたい。あくまで「ほんともフェスタ」の中の講演会である。

(おはなしチャチャチャ)

- ・以前開催していたグリナード永山会場でのおはなし会は、今回は実施しないのか。

→ (事務局) そうである。

(もりの文庫)

- ・おはなし会は、現在行っている感染対策をして実施ということか。

→ (事務局) そうである。

(事務局)

- ・グリナード永山でのおはなし会団体紹介展示については、資料3をご覧ください。今回は二つ案があるが、一つ目は去年の展示を踏襲する案(2階エスカレーター付近に各団体のパネルを掲示する・メッセージがある団体はメッセージ

を貼る・パンフレット等設置したい団体は、設置する)である。二つ目は、おはなし会ボランティアの方々にスペースを自由に使い、自分たちで紹介コーナーを作っていただくものである。

- ・踏襲するならば、各団体のパネルが古くなっているため作り変えてもらった方が良いかと思う。
- ・地図のパネルは、おはなし会の実施日時等が変わっているため、団体名のみを書き込む形ではどうか。こちらも古くなっているため、課題である。

(もりの文庫)

- ・先程、新型コロナウイルス感染症のこともあり全体を踏襲して開催しようという話になっていたのに、おはなし会団体の紹介の部分だけ新しくするのは少し違うのではないかと思う。新型コロナウイルスの状況もまだまだ流動的であり、大勢で頭をつきあわせて活動できる時期ではない。

(多摩おはなしの会)

- ・メッセージの掲示については去年提案したが、実際に掲示したのは2団体だったため、その点については、今年は踏襲しなくてもよいような気がする。

(もりの文庫)

- ・しかし前回メッセージの掲示を見て、メッセージの掲示というのはこういうことだったのかとわかり、「今回はこんなメッセージを出そう」と考えている団体もあるかもしれない。

(おはなしチャチャチャ)

- ・二つ目の案についてだが、机二つ分のスペースを各団体が共有し、相談して作り上げるということか。
→ (事務局) 全団体は難しいかもしれないが、そうである。

(おはなしチャチャチャ)

- ・参加した団体はよいが、それ以外はパネルのみの展示か。
- ・新しく作り上げるというのは難しいと思う。

(多摩おはなしの会)

- ・前回は新型コロナウイルス感染症の状況的にもボランティアが常時会場にすることが難しかったため、図書館職員が常駐していたが、万一展示物が無くなったりしても責任を負えないということだった。前回の展示を踏襲する場合、会場の

見張りをどうするのも課題である。

→（事務局）見張りがいたとしても展示物が絶対に安全ということはないため、万一無くなったり壊れたりして困るものを置くのはご遠慮願いたい。

（もりの文庫）

・二つ目の、ボランティアで自由に作り上げる案は難しいと思う。

（会長）

・資料3の、前回は踏襲する方法で良いか。それとも何か別のやり方を考えるか。

（もりの文庫）

・このままで良いというわけではないが、今どうするか考えるのは厳しいと思う。

（つくしんぼ文庫）

・メッセージの掲示は希望した団体が行うのか。

→（会長）そうである。

（会長）

・特に新しい意見がないようなのでこれでよいか。

（コアラ文庫）

・パネルを新しくしたい団体は、それぞれ検討すれば良いということか。

→（事務局）そうである。

（もりの文庫）

・「なるべく新たに作り替える」ではなく、「新しくしたい団体は」としてほしい。

→（事務局）ではそのようにする。

（コアラ文庫）

・それは今年度についてはということか。

・前回の展示を見に行った際、地域で何か活動したいという60歳前後の方が「こんなに沢山おはなし会のボランティア団体があるのか」と興味をもって見ていた。多くはないかもしれないが、自分も子どもに関わるボランティアをやりたいという方はいる。そういう方にどうアピールしていくのが重要である。私たちボランティアは、新しい人が活動に加わってくれることを期待している。それを

念頭に置いての展示にしていきたい。

(事務局)

- ・地図のパネルが古くなっているため掲示をやめ、その代わりの掲示物を何か作るのはいかがでしょうか。

(つくしんぼ文庫)

- ・地図のパネルは図書館が作成したものか。
→ (事務局) そうである。

(もりの文庫)

- ・新しい地図パネルの作成は新本館が開館してからの方が良いのではないかと。また現在はまだおはなし会を思うようにできない状況でもあるため、新型コロナウイルス感染症の状況に明るい兆しが見え始めたときに、新しくしたい。

(布の絵本サークル ピエロ)

- ・新本館ができるタイミングで新しい地図パネルを作成し、新本館に常時飾っておくのが良い。

(おはなしチャチャチャ)

- ・しかしあまりに古いようであれば、新本館を待たずに作り替えた方が良いのではないかと。

(実際に地図パネルを確認→結論：今回は作り替えなくても問題なし)

(事務局)

- ・メッセージの掲示を希望する団体には、メッセージを提出してもらうということが良いか。前回掲示したのが2団体だったため、今回メッセージ掲示を行うかどうかをお聞きしたい。

(もりの文庫)

- ・メッセージ掲示について、今回も声をかければ前回より掲示が増えるかもしれない。募集して良いと思う。
→ (事務局) では、メッセージ掲示希望の団体は、メッセージを作成して提出していただくこととする。

3 意見交換

(1) おはなし会の今後のあり方、ボランティアと図書館の協力体制等の方向性について

(事務局)

(資料2、4に沿って説明)

(事務局)

- ・おはなし会において、歌を歌うことと、もののやり取り認めてほしいという意見がある。現在、新型コロナウイルス感染症の流行は下火となっているが、また流行の波が来るのではないかという予測もある。この場でもう一度意見を聞き、歌うことともののやり取りの可否について検討したい。
- ・歌・もののやり取り以外の注意事項は、今後も守っていただきながらおはなし会を開催していきたいと考えている。

(多摩おはなしの会)

- ・もののやり取りの規制は今後も続けて良いと思う。この規制があってもプログラムを組むのに特に困難は感じない。もののやり取りよりも、歌を歌うことを可としてほしい。これまで皆で一斉に大きな声で歌ったことはなく、今後もそのようなことは避けるが、演者がプログラムの中で歌を歌うことは認めてほしい。

(つくしんぼ文庫)

- ・同意する。おはなしの中の歌は、おはなしの一部であり、少し抑揚をつける程度のものである。子どもたちが歌うわけではない。

(多摩おはなしの会)

- ・おはなしの間にわらべうたを歌うことも認めていただきたい。「全員で、大声で歌うことは避けるように」というものであれば理解できるが、歌うことを全て禁止するのはおかしいと思う。

(もりの文庫)

- ・演者と子どもたちが一緒に歌わないということで解決できないか。おはなしの中の歌は、おはなしの中で抑揚をつける必要があるために、抑揚がついている。演者が歌うのは、おはなしをするのと同じことである。「演者と子どもたちが一斉に歌わない」という規制ならば、こちらも受け入れる。

(多摩おはなしの会)

- ・コロナ禍におけるおはなし会の注意事項を、そのように書き換えてほしい。今の書き方のままだと、今回の経緯を知らない職員は「歌は全て禁止」だと思ってしまう。

→ (事務局) では、そのように検討する。ただ感染が増えてきた場合は、また規制についてご相談させていただければと思う。

(おはなしチャチャチャ)

- ・私たちボランティアもワクチンを接種するなど、感染防止のための手立てはした。緊急事態宣言が発出されたら即おはなし会を中止するのではなく、そういったことも加味した判断をしてほしい。
- ・また今後、感染が増えてきたからという単純な理由だけで再度歌を全て禁止とすることはやめてほしい。

(事務局)

- ・以上のことについて、内部検討する。

(コアラ文庫)

- ・資料を見ると、11月のおはなし会の初回は6日のため、6日に間に合うように歌のことについて検討していただきたい。
- (事務局) なるべく早く対応したいが、既に各館が資料にあるスケジュールで動いているため、6日から今回のご意見を反映することは難しい。

(多摩おはなしの会)

- ・あかちゃんおはなし会は、全面的には再開していないのか。
- (事務局) 通常のおはなし会と同じ制限の中で、可能なようならば再開している。各館の判断に任せている。

(つくしんぼ文庫)

- ・わらべうたなしであかちゃんおはなし会を行っているということか。
- (事務局) そうであると思う。

(事務局)

- ・時間がないため「中長期的なおはなし会の今後のあり方」は次回検討とする。

できればこの場では、課題などを挙げていただきたい。

(コアラ文庫)

- ・「あかちゃんおはなし会の内容の検証」というのは、具体的にどのようなことを検証したいのか。また、どのような課題があるのか。

→ (事務局) あかちゃんおはなし会は一時期非常に人気があったが、その後はブームが去ったような状態である。赤ちゃんと保護者があかちゃんおはなし会に1、2回参加しても、その後のおはなし会や図書館利用につながらない場合が多いということを聞いた。あかちゃんおはなし会について情報共有していただき、赤ちゃんのいる若いお母さん方のニーズや、生活スタイル、考え方等を確認し合えればと思う。

おはなし会のプログラム等狭い意味でなく、場所や日時等も含めて検証したい。あかちゃんおはなし会については平成21年度にアンケートをとり、その後ボランティアの方々も工夫して開催してきてくださった。現在の課題をこの場で見つけ出せればと思う。

(コアラ文庫)

- ・想像だが、児童館の親子向けの時間と、おはなし会開催日や時間が重なっているのではないか。
- ・たまっこでのあかちゃんおはなし会には、必ず1回に10組以上来場する。需要がないわけではない。

(もりの文庫)

- ・おはなし会全体についてだが、たまっこや児童館、子育て支援センターでは、緊急事態宣言下でもおはなし会を開催できている。図書館では、緊急事態宣言が発出されると、おはなし会が中止になる。同じ多摩市内の公共施設であるのに、対応に違いがあるのは何故なのか。子どもがいる当事者は、不思議に思っているのではないか。
- ・おはなし会の開催については、市内のほかの子育て関連施設の状況も加味しながら、考えてほしい。

(続きは次回検討)

(もりの文庫)

- ・新たに個人での活動を望むボランティアがいるということだが、それについては、ボランティアをどのように受け入れるかという図書館の考えを先に説明すべきではないか。

(文庫連絡協議会)

- ・ボランティアの受入れについて、基準を設けてほしい。それも含めて、次回話し合えばよい。

(多摩おはなしの会)

- ・議題とは関係のない質問だが、教育委員会の中で、現在の「多摩市読書活動振興計画」を延長し、今後「第四次多摩市子どもの読書活動推進計画」と一本化するということが決まったのか。図書館協議会の議事録を見たところ、計画の一本化を図書館長が提案しており、教育委員会で検討することを図書館協議会が了承していた。第三次計画まではこんな形で進めてきたが、今後どのように計画を進めていくのか。現在の状況と、現在わかることを教えてほしい。既に検討が始まっているのか。「来年度の4月から策定の準備に入りたい」と議事録の中にはあった。将来、計画をどのように進めていくのか、ボランティアとして強い関心がある。この連絡会で、報告していただければありがたい。
- (事務局) そのような方向で、内部で打合せはしたが、どこまで決定しているのか正確に把握していない。次回の市民ボランティア連絡会で報告する。

(もりの文庫)

- ・先日、初めて多摩市立電子図書館を利用し、電子書籍を借りてみた。障がいのある子等は、耳で聞くコンテンツを楽しむことができ、また、このコロナ禍において図書館に来館せずに本を借りられるというメリットはあるが、これはちょっと、と思うような内容の電子書籍もあった。令和2年度の文部科学省による実態調査では、「適当な電子図書のコンテンツが少ない」点が問題点として挙げられている。コロナ禍にあって、非接触型の電子書籍を取り入れることは大切だが、コンテンツ自体が少なく、内容の良いものも少ないという状況で、お金をかけて購入することに疑問を感じる。子どもの本は特に選書が大切である。電子書籍についても、子ども向けのものは厳しい選書をしてほしい。

(文庫連絡協議会)

- ・動く絵本は、ほとんど動画である。おもしろさはあるが、簡単に子どもに手渡

してよいものかと思う。感性を育てるという意味で、動く絵本で想像力が育つのが心配である。親がそのようなことをわかっていて、「今だけ」ということで子どもに見せているのならば良いのだが。子どもが喜ぶからと気やすく与えている家庭も多いと思う。

- ・電子書籍は、一つ一つの値段が高く、貸出回数に制限があるものもあると聞いた。お金をかけて良いものかどうか検討し、内容・質をきちんと取捨選択する必要がある。

(もりの文庫)

- ・予算がないという理由で電子書籍を導入していない自治体は多いが、適当なコンテンツが少ないということも、理由として大きい。以前、児童書の選書をしっかり行ってほしいと話したことがあるが、電子書籍についても同じような目で選書をしてほしい。外国語のコンテンツや、障がいのある子ども向けのコンテンツ等、使い方は様々あると思うが、単に「絵本に代わるもの」と考えることはできないと思う。

4 情報交換及び次回の日程について

(コアラ文庫)

- ・公民館の主催事業で、読書会を開催する。「ニュータウンクロニクル」(中澤日菜子、光文社)という、多摩ニュータウンが舞台の本を作家とともに読み合うという会で、全3回・申込制である。定員が各回15人だがまだ余裕があるそうである。

(文庫連絡協議会)

- ・文庫連だよりを配付する。

次回開催日

1月20日(木) 9時40分～ 講座室

閉会

(午後4時35分終了)